

1. 研究分野 教育方法学 (教育課程論, 教育方法理論史, 教育技術論)

2. ゼミの内容・方法

子どもたちは何をどこで学んでいるのでしょうか。言うまでもなく子どもたちは生活のあらゆる場面で学んでいます。しかし、そこでの機会的、偶発的な学びだけでは現代社会を生きぬいていくだけの力が身につかないと世間が認めているからこそ、学校という人工的な場で、「教育課程」に従って、「授業」を通じて計画的に学ぶことが求められています。しかし、一般的に言って、その計画は子どもたちにとって十分なものになりきれていません。子どもたちが発する「何でこんなことを学ばなければならないの?」「もっとこんなことを知りたい。」という問いや要求をしっかりと受けとめられる「教育課程」や「授業」を作っていくこと。それが私達の願いであり、狙いです。

そうした子どもたちの問いや要求と密接に関わっているのが、彼らをとりにまく社会や文化を含めた環境の急速な変化です。それを受けて、「総合的な学習の時間」の導入を皮切りに教育内容の“規制緩和”が進みつつあります。この流れの中で、旧来の教育内容にはきちんと組み込みづらかった教育内容(例えば情報教育、環境教育、国際理解教育、性教育、薬物汚染防止教育、消費者教育、いのちの教育等)の学校への導入や、小学校英語等のように従来より早い階梯への教育内容の前倒しなどが検討されるべき課題として急浮上しています。

本ゼミでは、上記の課題解決をベースにしつつも、基本的には所属院生の希望するテーマに沿って、先行研究収集と批判的分析、研究仮説の立案と“検証”の具体化(多くの場合単元案・授業案、評価規準・基準の作成)、実習による“検証”と改善案の立案を行っていきます。

3. 過去の指導内容

○既存修士課程での研究テーマ例

- ・コミュニケーション能力を育成する小学校英語活動のカリキュラムデザインに関する研究
ー学級担任を中心とする授業づくりの観点からー(2007年度)
- ・笑いの効用に着目した特別活動・学級経営に関する研究
ークラウンシンキングの視点を生かしたインプロ・プログラム開発を通じてー(2007年度)
- ・児童が主体的にかかわる体験活動を核とした環境教育プログラムの提案(2008年度)

○新専攻(教職大学院)での研究テーマ例

- ・子ども一人ひとりを生かした小学校体育科指導法の探究(2008年度)
- ・プロセスライティングを活用した高等学校ライティング指導の改善(2009年度)
- ・フォニックス法を活用した効果的な中学英語授業開発(2011年度)
- ・タスクを用いた活動を通して、中学生の話す力の正確性を高める研究(2012年度)
- ・記号論的読解を取り入れた文学の授業(2014年度)
- ・多様な考え方のそれぞれのよさに気づかせる算数科授業の工夫(2015年度)
- ・中学校数学科における思考を促す表現活動を取り入れた授業づくり
ー見通しとふり返りを記述する表現活動を通してー(2016年度)
- ・小学校国語科「書くこと」における言語技術を向上させる学習指導
ー教科書教材を活用した「ワークショップ型学習」活動を通してー(2017年度)
- ・中学校体育授業における運動有能感向上に関する研究
ー熟達雰囲気促進を手立ての開発とその有効性の検討ー(2018年度)
- ・教科等の本質的なねらいと新たな資質・能力の育成とのバランスがとれたクロスカリキュラムの研究
ー中学校数学科の授業を通してー(2019年度)
- ・小学校高学年の児童の算数科に対する自律的動機づけを促す授業モデルの開発
ー小学校5年生における倍の関係に関する学習を足かがりとしてー(2019年度)
- ・教育内容を明確にした小学校「体づくり運動」カリキュラムの開発と運用(2020年度)
- ・「デジタル・シティズンシップ」教育論に基づいた情報モラルのカリキュラムの開発と運用
ー小学校4年生を事例としてー(2022年度)
- ・楽しい工夫ある体育授業(2023年度予定)